



その22 安城の三河万歳

正月を彩る伝統芸能「三河万歳」。かつて、関東地方で万歳といえは三河万歳のことを指すほど有名で、中には他地方から来た万歳師が自称する、いわゆるえせ三河万歳もあったほどでした。さて、安城市内に伝わる三河万歳には、二つの系統が存在しました。一つは、古くから東別所町と西別所町の辺りで伝承されていた別所万歳と呼ばれているもの。もう一つは、明治時代のころに榎前町の辺りで広まった尾張系の万歳です。戦後、万歳師が少なくなり衰退していった別所万歳に対し、榎前町の万歳は盛んになっていきました。



昭和30年代に入り、榎前町の万歳を伝統芸能として後世に残したいという気運が高まり、芸や衣装の整備が進みました。その後、テレビ出演などで認知度を高め、すっかり「安城の三河万歳」として定着し、昭和42年には、安城の三河万歳保存会が発足したのです。ところが、衰退していた別所万歳が実は江戸時代から名のある「三河万歳」であると判明したため、保存会の会員数人が、別所万歳の伝承者である茨城県在住の若杉氏より指導を受けることとなったのです。

※1月8日(日)に三河万歳の実演をご覧ください。(本紙12ページ参照)

わさったものが、現在の安城の三河万歳です。主に行っている演目は三つありますが、そのうちの「神道三河万歳」が別所系、「御殿万歳」と「三曲万歳」が尾張系になります。ここまでする聞く「尾張系が入っているのに三河万歳？」と疑問に思われるかもしれません。しかし、どちらの万歳も、この三河・安城で伝承され、そして現在行われているというれっきとした「安城の三河万歳」なのです。



今月の案内人
安城の三河万歳保存会会長
寺島清さん